

長崎市立小江原中学校 令和5年度学力向上プラン

【 学校教育目標 】

自ら学び、さわやかで、たくましい心身を持つ生徒の育成

【 重点努力目標 】 “”確かな学力向上を目指した学びの土壌づくり“”

【重点目標達成のための実践事項】

【授業規律の確立】

3分前着席などの授業規律を徹底することで、一人一人が安心して学ぶことのできる学習活動の基盤を作る。

【「めあて」と「まとめ」の明確化】

「めあて」で授業で身に付けたい力のゴールを示して学習の見通しをもたせ、「まとめ」で学習の定着を図る。

【授業形態の工夫】

ペア学習や班学習など、生徒同士が教え合いや話し合いを行う場を設定する。

【個に応じた教育の推進】

通級指導教室との連携を図るなど、必要に応じた授業支援体制を整える。

【ICT機器の活用】

デジタル教科書やクロムブック(キュビナなど)を積極的に活用する。

【家庭学習の工夫】

【小中連携】

【国際理解教育の充実】

【キャリア教育の充実】



これらの実践事項をもとに、各教科の課題を分析し、具体的方策を決め、課題改善のために取り組む。

＜目標＞ 各種学力調査で、全国、県、市の平均を超えることを目指す。

○各教科の課題の分析と具体的方策・課題改善のための取組

本校生徒の現状や課題 (各種学力調査や授業時の取り組みからの分析)		課題改善のための具体的方策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年生は、漢字の書き取りや文法、条件作文の正答率が低い。言語の知識が定着していない。 ・3年生は、全国の平均を上回っており、思考・判断表現の能力は高めてある。漢字の書き取りの力が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「条件作文」で書く力をつける ・ドキュメントを使って作成した文をクラスルームで共用し、感想や意見を交わす。 ・漢字テストで「書き取り」だけでなく「音訓・部首・筆順」など幅広く実施する。継続的な反復練習をさせる。 ・文法関連の問題を数多く解かせる。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は、基礎、活用ともに目標値を下回っているが、グラフを見て説明することでは目標値を大きく上回っていた。 ・2年生は、4つの領域の正答率が全て県より低く、全体の正答率も低い。また、無回答率が高い。 ・3年生は、県や市と比べると正答率が高い問題もあるが、全国と比べると正答率が高い問題は6つしかない。他は全国よりも正答率が低い ・全学年、基礎基本の定着と記述式の問題への取組や学習に向かう意欲が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班活動で教え合い学習の時間を設定し、中心となる生徒に指導させるなど、学力の全体的な底上げを図る。 ・定期的に小テスト単元テストを実施。問題集からそのまま出題することで、学習への意欲的な取り組みを助長する。 ・授業の中で5分間キュビナに取り組む時間を設定し、復習することで基礎基本の定着と学習意欲の向上を図る。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・「書く」ことに大きな課題がある。 ・社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができない。【思考・判断・表現】 ・与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させることができない。【知識・技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・条件英作文に協力しながら取り組む。 ・毎回、英文の語順を提示する→会話する→書くの繰り返しで定着を図る。 ・練習した英作文について、条件英作文テストを実施する。

理科	<ul style="list-style-type: none"> ・低学力生徒への支援が必要である。 ・キュビナ・クロムブックを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の「めあて」と「まとめ」を明示する。 ・デジタル教科書などの画像や動画を用いて、視覚的に理解させるようにする。 ・ワークシートを工夫して、書く力のサポートをする。 ・キュビナによる小テストや単元テストを実施する。 ・ドキュメントでのレポート作成を行う。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校での既習内容に関連した単元は、興味を持って聞くことができる。単元によって取組に差がある。 ・時差・時刻を求める内容など計算を伴い、グラフや資料の読み取りなど、思考力や説明する力が不足している。 ・基礎基本的な既習内容の未定着。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校までの既習内容と関連づけて紹介したり、生徒に身近な内容を具体例に出すなどの工夫をする。 ・集中力不足の生徒が多いので、視覚、聴覚に訴える資料を多く準備し、興味・関心が高まるよう工夫する。 ・キュビナの活用や自作のドリルに取り組みさせることによって、基礎基本の定着を図る。
保体	<ul style="list-style-type: none"> ・運動能力と運動意欲の二極化の傾向にある。 ・理解力が乏しい生徒に対して『わかる授業』の展開が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通メニューによる基礎基本の学習の定着を図る。 ・ワークシート等に取り組む時間をタイマーで示す。 ・パワーポイントによる問題形式や視覚的な資料を用いた授業展開を行う。 ・補助教材を活用し、確かな学力の定着を図る。 ・調べ学習での動画資料の活用やドキュメントを用いたレポート提出、カメラ機能で技能チェックをするなど、クロムブックの効果的な活用を進める。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・集中できる生徒と集中力不足の生徒との差が激しい。 ・既習事項の音楽用語や記号が定着していないので、楽譜を読む力や表現を工夫する力が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律を整え、丁寧で分かりやすい説明を心がける。 ・クロムブックを積極的に利用し、意見交流や音楽の聴き比べなど、生徒にとって楽しく充実した内容になるようにする。 ・身に付けた知識が音楽の中でどのように使われているのかを理解できるように、「知る→聴いて理解する」の流れで常に授業ができるようにする。 ・身に付けた知識を実技と筆記の試験で確認する。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・3分前着席や2分前学習が完全ではなく授業規律の確立が課題。 ・制作に粘り強く取り組めない生徒がいる。 ・制作手順が理解できない生徒や作品のアイデアが思いつかず、制作が進まない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2分前学習を行う体制を整えるなど、授業規律を確立する。 ・ICT機器を活用し、集中できるような教材を工夫する。 ・班活動を取り入れ、お互いに学び合う機会を作る。 ・ICT機器を活用し、アイデアを出しやすいツールを作る。 ・支援が必要な生徒には、個別指導を行う。
技術	<ul style="list-style-type: none"> ・集中力不足で聞き漏らしをする生徒が多く、作業ミスがあったり、ノートが未記入のままになっていることがある。 ・製作などは進んで行い、ペア学習や班活動を協力して行うことができるが、作業が遅い生徒が多い。時間配分が苦手な生徒も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」を明確化し、作業の見通しを持たせる。 ・教材の見本を準備し、常に確認ができるようにする。 ・板書は、記入部分を拡大したり、解答をクラスルームに投稿するなどして、記入しやすいようにする。 ・作業はペアで行い、協力して課題を解決させることで、学習内容の定着を図る。 ・授業のきまりや時間配分等を示し、授業規律を確立する。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉指示を聞くまでに時間がかかる。 ・自分の意見を持ってるわけではないが、他の生徒の意見を否定する生徒がいる。 ・実生活との結びつき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚、聴覚どちらからも情報を得られるような板書の工夫をする。指示はなるべく少なく、簡潔に行う。 ・班活動を増やし、多面的・多角的なものの見方へのアプローチを図る。 ・被服実習などは時間を多く設定しておく。 ・生活への課題と実践を単元ごとに行う。



生徒会発案の小江原中
イメージキャラクター
「ばるるん」